

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【公開番号】特開 2003-237525 (P2003-237525A)
 【公開日】平成 15 年 8 月 27 日 (2003.8.27)
 【出願番号】特願 2002-40432 (P2002-40432)
 【国際特許分類第 7 版】
 B 6 0 R 21/22
 B 6 0 R 21/20
 【F I】
 B 6 0 R 21/22
 B 6 0 R 21/20

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 2 月 1 日 (2005.2.1)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 5】

次に、第 3 図の通り、これとほぼ同幅だけ下側の箇所が左右方向折り返し線 1 1 に沿って乗員側 1 j から非乗員側 1 h へ折り返される。さらに、第 4 図の通り、これとほぼ同幅だけ下側の箇所が左右方向折り返し線 1 2 に沿って乗員側 1 j から非乗員側 1 h へ折り返される。この折り返し線 1 1 , 1 2 , 1 3 に沿う折り返し方向は、いずれも同方向であり、これにより第 4 図 (b) の通り巻回体 (メイン巻回体) 1 R が形成される。この巻回体 1 R は、乗員を左側に配置した車両前後方向の縦断面において、端辺 1 t に向って時計方向巻きとなっている。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 8】

自動車衝突してインフレーター 3 が作動し、この乗員脚部保護装置のエアバッグ 1 が膨張する場合、エアバッグ 1 に押されてリッド 4 が開き、エアバッグ 1 のサイド巻回体 1 r がケース 2 の前方に第 6 図 (a) の如く出張る。次いで、第 6 図 (b) の如く該サイド巻回体 1 r が乗員の脚部の左右に広がり、その後、エアバッグ 1 のメイン巻回体 1 R が上方に展開する。時計回り方向に巻回されていた該メイン巻回体 1 R は、第 6 図 (c) の如く反時計回り方向 θ に回転しながら、乗員の脚部の前面を上方に展開する。この場合、巻回体 1 r 及び 1 R は脚部の前面に沿って転がるように巻きが解かれるから、エアバッグ 1 は膨張に際し脚部前面に引掛ることは殆どない。このため、エアバッグ 1 はきわめてスムーズに展開する。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 1】

この状態から、第7図(c), (d) (第7図(d)は同(c)のD-D線断面図である。)の通り、エアバッグ1を左右方向折り返し線21に沿って全体としてケース2の下方側に折り返す。次に、第8図(a), (b)及び第9図(a), (b)の通り、左右方向折り返し線22, 23, 24の順にエアバッグ1を折り返してメイン巻回体1R'とする。この巻回体1R'も、第9図(b)の縦断面において端辺1tに向って時計回り方向となっている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

次いで、第13図(c), (d)の通り、端辺1tが乗員側となるように左右方向折り返し線34に沿ってエアバッグ1の下部を折り返す。さらに、第13図(e), (f)に示すように、左右方向折り返し線35, 36に沿ってエアバッグ1を折り返してメイン巻回体1R''とする。この巻回体1R''は、第13図(f)の通り端辺1tに向って時計方向に巻回されている。